

『せん妄』^{もう}について

精神科リエゾンチーム

▼ せん妄をご存じですか？

病気（体調不良）や手術、新しく治療を始めた時など、身体に何らかの負担がかかった時に、急に混乱したり、辻褃の合わないことを言い出したり、幻覚が見えたり、興奮したりすることがあります。このような「一時的な脳の働きの乱れ」を医学用語で『せん妄』と呼びます。イメージとしては「寝ぼけた状態」に近いでしょう。認知症と間違われることもありますが、多くは一過性で、体調の回復とともに改善が期待できます。

▼ せん妄の特徴

入院患者さんの10～30%にみられ、年齢とともに割合が増加します。高齢者や認知症を合併している方に生じやすく、75歳以上の高齢者では手術後のせん妄が50%を超えると報告されています。

ボーッとしたり、急に辻褃の合わない話をしたり、昼夜のリズムが乱れたり、夕方から落ち着かなくなったり、幻覚が見えたり、時間や場所が分からなくなったりします。興奮して安静に過ごせず、手術後でも歩き出したり、点滴チューブを抜いてしまったり、転倒してしまうなど安全を保てないことがあります。



▼ せん妄への対処

原因となっている病気の治療や薬の調整を行うとともに、昼夜のリズムが整うよう生活上の工夫やケアも大切となります。具体的には、日中はカーテンを開けて部屋を明るくし、できるだけ目を覚ました状態が維持できるよう、会話や活動をうながします。混乱を防ぐために、日時がわかるもの（時計やカレンダーなど）を目に入る場所に置いておくと良いでしょう。眼鏡や補聴器も大切です。使い慣れたもの、普段から身の回りにもあるものがあると安心につながります。新聞やラジオなど普段の生活習慣も継続しましょう。

必要に応じて、せん妄の改善や予防に効果のある薬を用いることもあります。一部の薬、特に睡眠薬（睡眠導入剤も含む）は悪影響を及ぼしやすいため、減量や中止、変更する場合があります（新しいタイプの睡眠薬は比較的安全です）。

当院では、せん妄リスクの高い患者さんに対して各病棟で必要なケアの提供を行っており、精神科リエゾンチームも適宜介入し、せん妄の予防・治療に取り組んでいます。